



「大学入学共通テスト」 第2回試行調査（プレテスト）について



2020年度から始まる大学入学共通テストに向けて、11月10日・11日に、平成30年度試行調査（プレテスト）が実施されました。

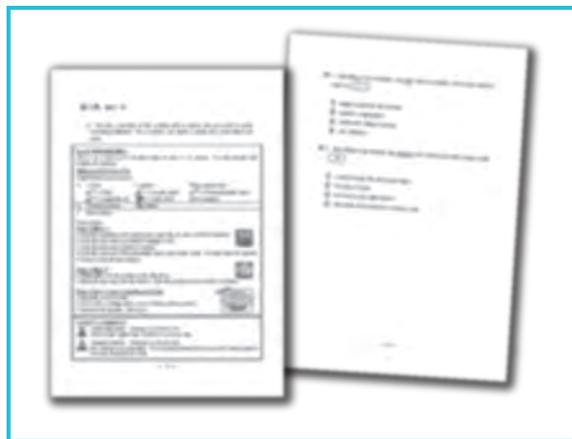
弊社教材に関わりのある国語・英語について、先月号の国語に続き、今月は英語をお伝えします。

【英語】

今回の筆記問題でも、2月実施の第1回試行調査と同様、選択肢の内容が事実であるか、意見であるかを判断させる問題が出題されました。

例えば、筆記問題の第2問Aには、ウェブ上の「肉とジャガイモのパイ」のレシピを紹介する記事を読ませた上で、事実を表す選択肢を選ばせる問題（問4）、意見を表す選択肢を選ばせる問題（問5）がありました。

大学入試センターが公表した資料によれば、第2問Aの問題のねらいは、「インターネット上に掲載された料理レシピやその写真からの料理の特徴の読み取りや推測を通じて、平易な英語で書かれた短い説明文の概要や要点を捉える力や、情報を事実と意見に整理する力を問う」とあり、問4、問5は特に後半の「情報を事実と意見に整理する力」を測ることを意図したものだといえます。



ちなみに、問4、問5ともCEFRレベルでA1程度とされていますが、問4の正答率は57.5%、問5の正答率は58.0%で、A1レベルの割には低い正答率でした。なお、第1回試行調査の第2問A問4も事実と意見を峻別させる問題でしたが、CEFRレベルでA1程度の問題にもかかわらず、正答率は14.0%に留まりました。これは、当てはまる選択肢を全て選択する問題であったことが大きく影響しているのではないかと考えられます（今回は正答選択肢を1つ選択する問題）。

今回、筆記問題で最も正答率が低かったのは、第5問（CEFRレベルB1程度）の問2で、8.7%でした。第5問は、プレゼンテーションのための準備をする場面で、米国の日刊紙「ザ・サン」を創刊したベンジャミン・デイの物語を読み、問いに答えるもので、問題のねらいは「物語の概要を把握する力を問う」ということでした。そのうち、問2はザ・サン紙が大成功を収めた理由として当てはまる選択肢を全て選択する問題でした。当てはまる選択肢を全て選択する問題形式は、明らかな誤りの選択肢を排除した後の段階で消去法による正答の絞り込みができないため、受験者に対する負荷は高くなりますので、このことが低い正答率の大きな原因だと考えられます。



第2問の問4、問5における事実と意見を峻別させる問題および第5問の問2における当てはまる選択肢を全て選択させる問題は、英文の概要を正確に読み取る力を要求する問題である点が共通しています。さらに、筆記試験全体の選択肢や指示文を含めた英文の量は、第1回、第2回ともに5300～5400ワード程度と、現行のセンター試験（4000ワード前半）と比べても多いため、英文を読むスピードも求められます。

共通テストの対策として、英文の概要を素早くなおかつ正確に読み取る力を早い段階から養成することが重要であるといえるでしょう。

※図はイメージです。

FACTBOOK と TerraTalk のコラボ開始！



話せる英語に向かってさらに前進！

総合英語 FACTBOOK

これからの英文法

大西泰斗，ポール・マクベイ著



 TerraTalk
テラトーク



AI を活用した英会話アプリで
FACTBOOK の例文が学習できる！

スマホ・タブレット・PC (予定)

FACTBOOK
学習に喜びと感動を
 桐原書店

 TerraTalk
Joyz, Inc. ジョイズ株式会社

学習に喜びと感動を
 桐原書店

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-15-3 住友不動産西新宿ビル 3号館
TEL : 03-5302-7010 FAX : 03-5302-7031 www.kirihara.co.jp